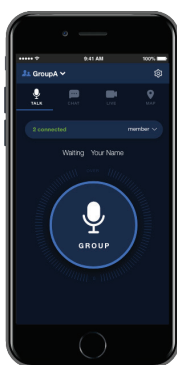


# Buddycomを導入して良かったこと

## “地下やトンネルの中でも 全国で通信が可能になった”

運輸

タクシー



以前は配車センターとタクシー車両が、デジタル無線機を使い、東京スカイツリーと田無タワーに設置されているアンテナを経由して、通信を行っていました。そのため、高いビルに阻まれると音声が届かなかったり、ノイズが入ることも多く、どうしても電波の不感地帯というものが発生しており、高層ビルが次々と建設されていく東京で運用し続けるにはデジタル無線機では限界がありました。

Buddycomを導入したことで、下記の効果がありました。

- 携帯電話通信網を使用しているため、携帯電波が届く範囲であれば地下でも通信ができるようになった
- デジタル無線機と比べると音声が非常にクリアになり、通信内容が格段に聞き取りやすくなった
- 1対1での通信やグループ別の通信等、より柔軟な呼びかけができるようになり、情報連携の幅が広がった

# 東京無線タクシー株式会社 東京無線協同組合



## 導入の背景

昨今タクシー業界では配車アプリの普及により、従来の無線機等の音声通話を廃止する動きがあります。ただし、配車場所への誘導やトラブル対応等、タクシー車両とそれをサポートするオペレーターとのやりとりは必要です。現場のリアルタイムなやりとりはチャットでは難しく、人だから行える指示や注意喚起には音声の有効です。

そのような中、東京無線協同組合では無線機のリプレイスとして、Buddycomを搭載したタクシー配車システムを全車両(3,537台)に導入し、配車センターとタクシー車両間の「音声」でのリアルタイムな情報連携を行っています。



## タクシーの配車センター と乗務員間の連携に使用

Buddycomは株式会社デンソーテンが開発するタクシー配車システムが搭載されたタブレットに組み込まれており、スピーカマイクの通話ボタンを押すことで、デジタル無線機の操作方法を大きく変えることなくBuddycomでの発話を行っています。

通話の種類は、配車センターと特定車両との個別通話、グループ通話、そして、全車に向けて一斉送信の3パターンがあります。主に配車センターによる車両の誘導、指示、連絡事項の送信、車両から配車センターへの報告などを毎日行っており、配車センターからタクシー車両への発話が多いです。乗務員は基本的に車両で配車センターからの情報を聞き、判断します。

道路交通法によれば、スピーカマイクを利用すれば走行中も発話可能ということですが、万が一のため、乗務員が発話する際は停車して話すようにしています。また、配車センターから特定の車両への1対1の通信のほか、緊急時などは配車センターから全車に向けての一斉送信をすることもあります。



### 導入検討中の方へのメッセージ

配車アプリの普及により、他の事業者では音声通話を廃止する動きがありました。ただし、配車場所への誘導やトラブル対応等、タクシー車両とそれをサポートするオペレーターとのやりとりは必要です。チャットでは時間がかかりすぎますし、人だから行える指示や注意喚起には音声の有効です。

そのため、私たち東京無線ではこれからもBuddycomによる音声コミュニケーションを最大限行っていきます。



株式会社サイエンスアーツ

WEB: [www.science-arts.com](http://www.science-arts.com)  
Service: [www.buddycom.net](http://www.buddycom.net)  
お問い合わせ: [info@science-arts.com](mailto:info@science-arts.com)

